

主体的な学びを促す授業づくり

小千谷市立和泉小学校
教諭 大森 千鶴

I 授業改善の視点

本校の研究主題は「意欲をもって学び、自ら考え、表現する子の育成」である。そのために、課題解決の見通しをもたせることに重点をおき、意欲を高め、考え、表現する姿を目指している。子どもたちが「できそうだ」「やってみよう」で始まり、「分かった」「なるほど」で終わり、できる楽しさ、分かる喜びを感じられるような授業構成を目指し、以下の手立てを講じた。

1 子どもとともに本時のめあてを作り上げる。

初めに本時の問題を子どもたちに提示する。今までの問題との相違点や共通点を考えることで、既習事項を想起させ、見通しをもちやすくする。相違点がこれから考えるところであり、子どもたちにとって解決したい課題となる。ここを本時のめあてとして、子どもたちの言葉で提示することで、子どもたちに「できそう」「ここがわかればできる」という気持ちが生まれる。教師のもつ本時のねらいが達成でき、子どもたちの思いが課題となるよう、問題や教材の提示の仕方を工夫する。

2 個人思考と交流場面とで、表現活動を行う。

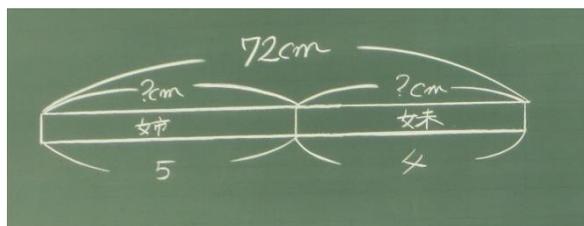
個人思考では、個々でもった見通しに沿って考えをノートに表現する。式、答えだけでなく、理由や根拠など、思考の流れを表現する。個人思考に行き詰まると自由に考えを交流し合い、話し合っ解決していく。自由な雰囲気話し合うことで、「でも」「だって」「なんで？」といった自然な言葉が飛び交い、考えを深めることができる。その後、全体で考えを共有し、話し合っさらに考えを深めている。

また、学期始めに「話す」「聞く」「書く」についての重点目標を掲示し、その目標を意識して表現活動を行う。より分かりやすい表現することで、友達の考えとの違いや共通点も分かりやすくなる。話し合いの中で、意欲を高めるとともに、思考力も高める。

II 実践（第6学年「比とその応用」）

1 子どもとともに本時のめあてを作り上げることについて

授業者がもつ本時のねらいは、「図を見ながら比で表し、比例配分の意味と計算のしかたを考えることができる」である。そのために本時では、「長さ72cmのリボンを長さの比が5:4になるように分ける。それぞれ何cmになるか。」という問題を提示した。子どもたちは、今までの問題と同じように問題場面をテープ図で表し、5:4に対応する数を考えた。子どもたちは、分からないところが2つあることに気付き、「5:4=□:□になってしまい、求められない」という困り感を持った。そこで、他に使える数は何かを話し合い、全体を示す72cm



に気が付いた。72cmに対応するものを考えることで、求められそうだと子どもたちの声から本時のめあてを「全体の比に注目して、リボンを分けよう。」とした。全体の比は5+4をすればいいということに、子どもたちはすぐに気が付き、9を図にかき入れ、思考の助けとしていた。

2 個人思考と交流場面とで、表現活動を行うことについて

全体の比に当たる9をどう使ったらいいか見通しがもてなかった子が多かったため、個人思考の前に「相談タイム」として近くの子とも見通しの交流を行った。72cmを9つに分けたのが全体の比であることを確認し、個人思考に入った。

個人思考では、ノートに自分の考えを式、図、言葉の説明で表現していた。72cmを9つに分けたという考え方から「 $72 \div 9 = 8$ 」という数を導き出し「 $8 \times 5 = 40$ 」「 $8 \times 4 = 32$ 」とそれぞれの比を掛ける考え方の子が多かった。「8は何か」を近くの子と相談し合い、解決する様子もあった。1つの考えができると別の考え方をし始める子も多く見られた。近くの子同士の考えの紹介では、図を指さしたり、理由を話したりして、表現をしていた。自分と違う考えにも興味をもち、「すごいね」「なるほど」と新しい発見をすることができた。



全体での交流では、子どもが考えの説明を行い、それぞれの考え方の整理を行った。考え方のポイントになるところを質問し、図や式に書き込んでいった。最後には、それぞれの考え方をネーミングした。比の1つ分を求める「比の1流」、全体：姉のリボンの長さで考える「比流」、割合を使って考える「割合流」の3つの名前を付け、子どもたちが学びを実感できるようにした。終末の振り返りでも名前を使って、自分の思考の流れを書いている子が多く見られた。

III 成果

(1) 積極的な交流活動

交流では、自分の分からないところを積極的に話し、解決しようとする意欲的な姿が見られた。自分の考えと比較したり、相手の考えを理解しようとしたりしながら聞く姿勢があり、「なるほど」「比のやり方をしている」「すごい。分数でしている」などつぶやきも聞かれた。多様な考え方を子どもたち同士が認め合うことができ、学びを深めることができた。

(2) 図、表を活用した表現活動

この単元を通してテープ図を活用してきた。そのため、本時でも全員が図で表すことができ、問題場面を捉えることができた。また、割合や速さの学習で使ってきた表を用いている子どもも見られた。子どもたち同士の話し合いでも、図や表を指し示しながら説明していた。全体での話し合いでも図に立ち返って確認することで、考えを整理することができた。

IV 課題

本時のめあて設定の際、「全体の比を使ってほしい」という教師の思いが前面に出過ぎてしまった。子どもたちの振り返りから、子どもたちの困り感は、「 $5 : 4 = \square : \square$ になってしまっていない」「分からないところが2つある」というところにあった。この困り感について、もっと話し合い、解決の見通しをもてるようにしていくべきであった。そのせいもあり、本時では、比の式で解く子はほとんどいなかった。本時のねらい、単元のねらいを達成するためにも、めあての練り合いを大切にしていきたい。

今後も子どもたちの意欲を高め、主体的に学習できるように手立てを考えていきたい。